

N I E 実践報告

鹿児島県立鶴翔高等学校

鏡山 晃央

1 はじめに

昨年度からN I E実践校の指定を受け2年目となる。N I E実践校としての活動は満足のいくものではなく、今年度実践計画として数項目挙げたが、すべてを実践することができず、取組としては不十分だったと深く反省している。ただ、昨年度からN I Eコーナーとして教室の一部を開放しており、授業の合間に新聞を読んでいる生徒も見られる。また、本校生の活躍の様子が新聞に取り上げられることもあり、新聞を読もうとする意識は見受けられる。

実践指定を受け2年目の今年度、あれこれと試行錯誤をする中で、継続的行ったものと授業で取り扱ったものについて報告する。

2 実践内容

(1) N I Eタイム

毎日実施している朝読書を金曜日だけ「N I Eタイム」と設定し、年間をとおして行ってきた。実施計画の段階では、図書委員会で記事を選び用紙を準備することとしていたが、連携がうまくいかなかったため、係で準備した。全校共通の課題文を読み、感想を書くだけの活動として設定した。生徒が興味を持ちそうなものや知識として備えておきたいもの、関心を持っていたほしいものという観点から選定した。

次は、取り上げた内容である。

月	日	新 聞 名	記 事 の 内 容
6	10	毎 日 新 聞	学校と私 サッカー選手 遠藤保仁さん …ア
	17	南日本新聞	「若い目」より 投稿された小・中・高校生の文章
7	8	西日本新聞	素朴な疑問？ 食品の裏側から 96 あしたのために<3>食べ物心も育む
	14	読 賣 新 聞	笑顔咲かせる子に 熊本地震 3 か月 前震翌日に産声 希望の源 …イ
9	2	毎 日 新 聞	コラム発信箱 国のメダル数よりも
	9	朝 日 新 聞	ことばの広場 校閲センターから 重陽 菊の節句めでたさ極まる …ウ
	16	南日本新聞	南風録 小惑星の名前に「フレディ・マーキュリー」
	23	南日本新聞	東京へ「前向きスイッチ」 三角さんの詩披露 視覚障害檜山さんの世界観表現
	30	西日本新聞	見れる 出れる「ら抜き」多数派に 国語世論調査
10	7	朝 日 新 聞	天声人語 ノーベル医学生理学賞に輝いた大隅良典さん
	21	毎 日 新 聞	てつがくカフェ なぜ貧しい国があるの？
	27	読 賣 新 聞	よみうり堂 本 青春小説の魅力「君の名は。」新海誠さん
11	4	朝 日 新 聞	水族館 ³ ショートレーナー 動物と心通わせて 本番へ
	11	朝 日 新 聞	作家 横松心平さん 誰もが必死に生まれてくる
	25	朝 日 新 聞	いま 子どもたちは おもてなし ¹ コロッケ 完売の味 …エ
12	9	読 賣 新 聞	わくわく新聞活用 少子高齢化って、どうなるの？
	16	西日本新聞	比呂美の万事OK 悩み相談Q&A …オ

月	日	新聞名	記事の内容
1	13	毎日新聞	蛭子さんの自由が一番 うれしい年賀状
	20	毎日新聞	鶴翔高生らジビエ食品開発 JR九州豪華列車「ななつ星」で提供
	27	南日本新聞	亡き師の教え永遠 横綱・稀勢誕生

以上のような取組を行ってきた。感想を記入したプリントを担当に提出し、それを係で回収し確認している。次に生徒の書いた感想を一部紹介する。

ア 鹿児島県出身の遠藤選手〔今年度最初のN I Eタイム〕

自分でいろいろな経験をして、何をしていいのか、何がしたらいけないことなのかを私ももう少し自然と覚えられるようになりたいと思った。また、周りの状況を確認する癖を私もしっかりとつけていきたい。怒られてもキレずに自分の心でしっかりと受け止めながら、日々成長していけたらなあと思った。(1年女子)

イ 熊本地震から3か月〔生徒たちはどのように受け止めているか?〕



熊本地震でみんなが不安や悲しみに包まれている中、希望の光のように咲空(さく)ちゃんが生まれてきたことが感じとれた。地震で亡くなった人もいるし、生まれてきた子もいる。命のリレーはどんなときでも繰り返されていることが改めてわかった。(2年女子)

ウ 重陽の節句〔雛祭り・端午の節句に比べ意外と知られていない節句〕

重陽という言葉は知らなかったけれど、今日が最大の「極まった」陽数9が重なる日であり、3/3, 7/7 など日付の行事も重なっているのだと考えてみたら面白かった。(1年女子)

「六日の菖蒲、十日の菊」という言葉を初めて聞いた。9月9日が重陽、菊の節句も初めて聞いたし、難しい言葉もたくさんあ

るので、調べて自分の知識として蓄えていきたいと思った。(2年男子)

エ 本校食品技術科も参加した「全国産業教育フェア(さんフェア)」〔他学科生の反応は?〕

鶴翔高校も金沢商高のように系列や学科に分かれています。私は資格をたくさん取りたくて情報・ビジネス系列に進みました。どの系列もいろいろな体験をさせてもらえて、若いうちからの積み重ねが将来に生かされたらいいなと思います。実践は絶対役立つので私もいろいろなことに挑戦していきたいです。(2年女子)

オ 悩み相談の回答者になる〔友人のいろんなものがうらやましくて仕方なく、すぐにそれをまねたり、それを会員制交流サイトに書いたりするが、それでも満たされないという悩みに対して〕

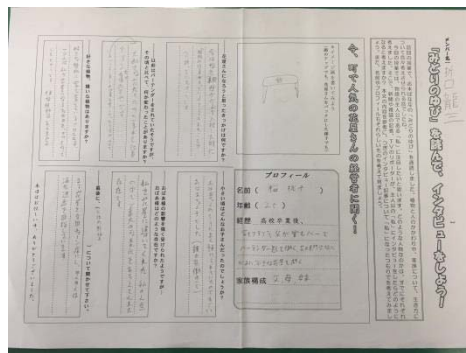
自分のやりたいことを無理に探す必要はないと思っている。今日の自分を楽しく生きていればそれでいい。わざわざ人に自分のことを見せなくたっていいと思う。自分が生きていられる、それがいちばんの楽しみ。今日の自分の心配は、今日の自分がするもの。明日の自分の心配なんて、よけいな世話だ。今を楽しむことがいい。(1年男子)

朝読書のわずか10分間の取組だが、毎回さまざまな感想があった。今後は、生徒の興味をもっと引き起こす記事等の発掘に努めたい。

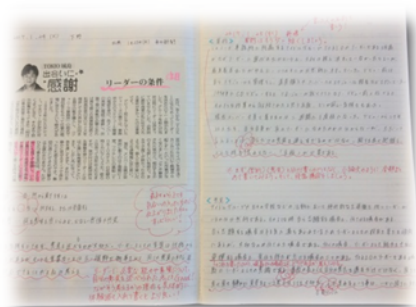
(2) 授業を通して

ア 物語の主人公へのインタビュー記事を作成する

2年生の現代文Bでよしもとばななの小説『みどりのゆび』を学習した際に行った活動である。内容は、主人公の女性が植物好きだった祖母との関わりの中で、花屋を志していくというものである。主人公の名前や年齢などが明記されておらず、読み進めていく中で、読み手が主人公について想像する余地を残した物語であった。そこで、読みを深めるため班ごとに主人公へのインタビュー記事を作成させた。まず、記事の中で柱となる質問を大きく3つ取りあげ、これまでの学習を振り返りながらその質問に対する答えを各自で考えさせた。この下書きの時間は1時間で行う予定であったが、比較的長い文章だったため内容を思い出しまとめることに時間がかかり、最後まで書き終えることができなかった生徒もいた。次の時間には、各自作成した下書きを持ち寄り、班で実際にインタビュー記事を作成させた。書いている内容は同じでも、一人一人言葉の使い方や表現が違い、初めはどのように記事にまとめていくか戸惑っている班もみられたが、実際の新聞のインタビュー記事を参考として示すことで、読者に伝わりやすい記事へと近づけることができた。内容理解の深化と共に、事実を正確に心情を分かりやすく伝えるために、どのように「書く」べきかを考えさせ、学ばせることができた実践である。



イ リレー小論文



2年生現代文Bの進学クラスで「小論文ノート」を作らせた。選ばれた記事を要約し、自分の意見を書くという読解と表現の学習である。ノートを渡された者は、前の人が選んだ記事を読み、自分の意見を書いていく。書き終わったら、次ページに自分が気になった記事を貼りつけて、次の人へリレーしていく。少人数で気の置けない友人同士の「リレー」に熱が入っている。

ウ 仕事（人はどうして働くのか）について考える

1年生のLHRで行ったものである。総合学科1年生では「産業社会と人間」という科目で調べ学習を行っている。より多くの人の職業観を知る機会を持たせるため、多様な職業やそれに関わる人が紹介されている「ひと（朝日新聞）」・「かお（南日本新聞）」を活用した。まず、5～6人のグループに分け一人一人に別々の記事を渡す。最初にこれから就職しようとする若者の記事を読ませ、「どのような仕事をしたいと思っているか」「どのような気持ちで働きたいと思っているか」を読み取らせ相互に紹介する。次に、実際に働いている人の記事を読ませ、「どのような仕事をしているか」「どのような気持ちで働いているか」という点からグループ内で紹介させる。その後、自分自身が将来どのような気持ちで働きたいかを考えさせまとめさせた。短い記事の中に人柄や生き方などが盛り込まれている「ひと」「かお」欄は、人物描写も生き生きとしており、職業観を考えさせるうえで非常に参考になっている。



(3) アンケートの実施と活用

生徒の新聞に関するアンケートを試みた。調査５項目の簡易なアンケートだが、実態が浮かび上がった。

アンケート結果 回答数（191名 １・２年生のみ）

１ あなたは新聞をどのくらい読みますか？

ア 毎日読む	3.0%
イ ときどき読む	10.0%
ウ ほとんど読まない	25.0%
エ まったく読まない	62.0%

２ 朝読書や授業等で新聞記事を資料として使用されたとき、困ったことはありましたか？

読めない漢字があった。文がどこにつながっているかわからない(読む行が次にどこにあるのかわからない)。内容が難しい。言葉の意味がわからない。読む記事に興味が無い。縦文字が読みにくかった。ふりがなを振ってほしい。内容がわかりづらい。

３ 朝読書や授業等で新聞記事を資料として使用される前と後では、変化がありましたか？

ア 新聞を読む回数が増えた	2.0%
イ 新聞を見るようになった	1.0%
ウ 興味のあるところだけ見るようになった	23.0%
エ 読まない(変わらない)	74.0%

４ あなたはどのような分野の記事に興味がありますか？

スポーツ、芸能、テレビ、生き物、政治、事件・事故、人の夢が叶った記事や努力が実った記事、経済、本など

５ 今、あなたがもっと知りたい、学びたいと思っていることは何ですか？

トランプ大統領、進路、環境、政治、英語、日本のこと、日米関係、世界情勢、道徳的なこと、人間の心理、スポーツ、太鼓、駅伝、野球、土木関係、無線、漢字、話題の小説、農業、貧困問題、経済、情報システム、化学研究、地元について、戦争、四字熟語など

アンケート結果から見てきたこととして、日頃から新聞に触れる機会が少ないことが挙げられる。新聞を読まない生徒が９割近くを占めている事実には驚かされた。そのため、学校で新聞に触れる時間をできるだけ多く設定する必要があると痛感する。授業においても積極的に取り入れ、読み方を丁寧に教えていかなければならないだろう。パソコンやスマートフォン等の画面では感じ取ることのできない「情報」をしっかりと把握させるため、読み慣れさせることも重要である。さらに、新聞は知識・情報の宝庫であることを実感させることも大切だ。生徒一人一人が新聞と向き合いじっくりと読む時間を設け、学校生活を充実させたいと思っている。

３ おわりに 課題と今後の展望

- (1) 主としてNIEタイムだけの実践となってしまうが、来年度も毎週続けていく。生徒が興味・関心を持っている記事などを調べ、図書委員を動かす。
- (2) 「若い目」への投稿を積極的に行う。
- (3) 生徒が新聞に触れる機会をもっと増やす。生徒の「通り道」に設置する。
- (4) 小さな記事でも、短時間でもいいので、多くの教科で新聞を取り入れた授業を推進してもらう。